

会議録概要 会議名： 第1回ニセコ町原子力防災専門委員会

開催日	平成24年10月3日 水曜日	会議時間	開会 10:00 閉会 12:00
会議場所	ニセコ町役場 第2会議室	記録者	総務課総務係 主任 馬淵
出席者	委員 北澤剛委員長、青山貞一委員、福田房三委員、斉藤海三郎委員、 矢野正裕委員、高瀬達矢委員、藤田明彦委員、加藤紀孝委員 アドバイザー 池田こみちさん 事務局 総務課 千葉敬貴参事、馬淵淳主任		
欠席者	なし		

会議日程

(1) 報告

- ① 委員会の組織構成及び調査検討事項について・・・資料1
- ② 国及び北海道の動向と本町の取組について・・・報告冊子等

(2) 議事

- ① 原子力防災計画の策定方針及び考慮すべき事項等について・・・資料2
- ② 原子力防災計画の策定工程について・・・資料3
- ③ 意見交換
- ④ その他

会議内容

<p>10:00開会 <委員長挨拶> 北澤委員長からの開会の挨拶</p> <p><報告></p> <ol style="list-style-type: none">① 委員会の組織構成及び調査検討事項について・・・資料1 ・資料に基づいて、内容の説明を実施② 原子力防災計画の策定方針及び考慮すべき事項等について・・・資料2 ・資料に基づいて、内容の説明を実施③ 原子力防災計画の策定工程について・・・資料3 ・資料に基づいて、内容の説明を実施④ 意見交換 ・青山委員からPAZ・UPZの説明（その後、以下のとおり自由に意見交換） <p>専門委員会の役割について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 計画案の作成が委員の役割として入っていないのか？ → 要綱へ案の作成という文言は入っていないが、実際には案の作成までを含めた調査・検討が委員の役割です <p>計画策定の全般について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 計画には用語解説を含めること・ 内部被曝への対応を明記すること、自家菜園者には注意が必要・ 乳児・幼児など体重が少ないと（被曝の）影響が高く、対応を優先する必要・ 障害者や老人などへの対応も優先する必要

- ・ 冬期の被災を想定した備蓄が必要、ジェットストーブなど
- ・ 現在の（科学・知識など）知見で計画をつくり、新しい知見が出来ると改善していくこと
- ・ 泊発電所（原子力発電）の停止を求めることや再生可能エネルギーへの転換を明記すべきではないか？
→ 原子力災害の対策に関する本計画に記載する事項ではない
- ・ 原子力防災に係わるアメリカの考え方について、避難80キロの考え方は日本と比べるとどうか？ → アメリカは被曝「0」を目指す、日本は「基準による一定の低被曝は大丈夫」と言っている

緊急モニタリングについて

- ・ 町が計測器を多く保有して緊急モニタリングが必要なとき、独自に実施することが必要ではないか？ → 本年度、道よりモニタリングポストが設置され、町としてデータ入手が可能となる
- ・ 併せて、計画に緊急モニタリングを定めるときは（地図上の）測地点と計測基準（地表からの高さ2m・1m・0.5m・0.05m等）を明記すべき
- ・ 計測基準はその高さの意味も合わせて示すべき
- ・ 放射能測定器による農産物の測定をどうするか？ 検討必要

避難計画について

- ・ 計画はゼロ被曝を目指すべきではないか？
→ あらゆる場合にすべてを捨てて避難するのは現実的ではない
- ・ P A Zのように即時避難が出来るようにすべき
→ U P ZやP A Zにとらわれることなく、（町として）自主的にどうするかを明記するもの
- ・ 町長が変わっても、避難が自動的に出来るものを目指すべき
- ・ （道路の）交通可能容量が限られているため、緊急避難場所（シェルター）を指定することが必要
→ コンクリート張り、ホテルへの避難等。決めておかないと有事の際に右往左往してしまう

計画策定の住民参加・情報共有について

- ・ 案を作成した段階での町民説明・町民参加では遅いのでは？
- ・ 案を作成するために町民意見を聞くことを実施してもよいのでは？
- ・ アンケートはどうか？ → 関係情報の共有などについてまだ町民の熟度が上がっていないのでは？
- ・ 専門委員会の状況をユーストリームなど動画で流せないか？
- ・ 計画内容や参考資料を分かり易く示すことが必要ではないか？
（各上記）→ まずは専門委員会の議事録をニセコ町公式ホームページに載せ、その他の事項は事務局の方で検討します
町としても住民参加・情報共有型の計画策定を重視しています
- ・ 町民との対話、計画策定後も教育・情報共有が必要

シミュレーションについて

- ・ シミュレーションは判断材料ではなく、検討資料とすべき（絶対ではないこと）
- ・ シミュレーションは雪の影響は考慮できない
- ・ 降雪に放射能があれば、除雪の度に被曝するのでは？
- ・ 雪の影響は日本の（原子力防災に係わる）研究自体でも成果として出ていない
- ・ 雪の影響（地域特性）について国や道へ提言・（研究を）要望すべき
- ・ シミュレーションで町内の（被曝の）ホットスポットは検討できるか？
- ・ （シミュレーションの地図で）一番細かいものが50mメッシュ（50m四方）であり、データを解析すればホットスポットも分かる
- ・ シミュレーションをする上で風向の把握が重要、ヘリポートでの風向計が災害で壊れないよう維持・整備する必要がある
- ・ 放射線量と風向とをモニタリングポストで定時測量、ニセコ町の公式ホームページで公開できるような設備を要望すべき
- ・ 想定被害のイメージはあるか？
 - シミュレーションで起こり得る状況を見える化したい